
人柱

ハシルケンシロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人柱

【Nコード】

N7461A

【作者名】

ハシルケンシロウ

【あらすじ】

江戸時代に人柱にされた少女の逆襲が始まる。

（前書き）

推理しか書いた事の無い俺の初短編初ホラーです。

暖かく見守って下さい。 m ((m

《逃げなきゃ……》

解つてはいるが、足が地面に張り付いているかのように動かない。
無造作に心の中に広がっては消えていく、焦り、恐怖、嫌悪感。
全ての負の感情が身体を凍り付かせていた。

「お願い……」。

許して……。

止めて……。

助けて……」

自分の知る限りの命を乞う言葉を、狂ったように投げ掛ける。

女は満面の笑みをたたえ、あたしを見つめている。

《逃げる！》

気力を振り絞って一歩目を踏み出そうとした刹那、重苦しい空気とともに極度の痺と息苦しさが襲ってくる。

ざくっ……、ザクッ……。ざくっ……、ザクッ……。

女は無言で穴を掘る。

《なん……

ざくっ……、

なのよ……》

ザクッ……。

広がっていく穴。

【もうすぐ掘れるからね】

不意に意識に直に飛込んで来たかのような女の声。

エフェクターを通したかのような現実離れた女の声。

それは目の前で楽しそうに地面を掘り返している娘から発せられていることは明らかだった。

ざくざくザクザくざくザクざくざくザく……………

……………。

《あの穴何なの……………、あたしをどうしようっていつの……………？》

掘り上がっていく穴。

もうすぐ自分が入ってし……………、

《！》

今まで経験したことの無い特大の震え。

《まさか！》

下腹の奥であらゆる筋肉が自分の意志とは無関係に収縮していくの

が自分にも解る。

ザクザクッ……。

《殺さないで止めて怖いよ助けて嫌だ死ぬもうだめヤメテシニタク
ナイイヤダタスケテシヌ……………、コロサレル》

あらゆる負の感情が一緒くたになり爆弾と化してあたしに炸裂する。
その瞬間、猛烈な胸の痛みと共に意識が飛んだ……。

わたしの体を動かしているのはわたしの意思では無かった。
一心不乱に穴を掘るわたし。
その姿を見て必死に命を乞う親友。

《駄目！

止めなきゃ！》

奴がわたしを使ってしようとしていることは解っていた。

《生き埋め》

一心不乱に穴を掘るわたし。

《止めてお願い！

止まってお願い！》

親友の口からはもはやなんの言葉も出てこない。
ただ押し黙って、小刻に震えながら自分の墓穴が掘られていくのを見つめていることしかできないようだ。

《止める止める止める止める……ヤメロ》

わたしの思いはわたしの中で消え失せる。

それは決してわたしの脳内で電波に形を変え、神経を伝ってわたしを止めることは無い。

一心不乱に穴を掘るわたし。

それを止めようと必死の抵抗を試みるわたし。

一心不乱に穴を掘るわたし。

もうだめだと諦めてしまったわたし。

もうすぐ穴を掘り終えそうなわたし。

《親友を埋めるわたしの手を……、ただ……、黙って見ていることしか……、デキナイ……、ワタシ……》。

親友は激しく震えた。

黒目が上へ上へと移動していき、しまいにはわたしの視界から消え失せてしまった。

口から泡を吹きながら顔中の穴から黄色みがかつた体液を出し始める親友。

《死んだ……???》

震えが収まり動かなくなった親友。

《死んだの……???》

股間から顔とは別の黄色みがかつた体液を出し始める親友。

《死んだ!!!!!!》

親友の死を確信したわたし。

【この女の代わりに貴様をいたぶってやる】
不意に響いてきた女の声。

様々な体液を垂れ流した親友の死体。

場違いな軽やかさの足取りでそれに近づくわたし。

ようやくこの世で最後の放尿を終えた親友。

その親友の腕を力任せに驚掴みにするわたし。

《何をする気なの!?!》

そして……。

がぶう!……、ぐちゃっ、ぶちっ、くちゃくちゃくちゃくち
や……、
ごくんっ……………。

《た……………！

食べ食べ……………！

食べた……………！！

食べたたたたたタバタ食べタバタたたたたタバタ……………お……い……………し……………い》

あははははうははへへへへひひひひひ

食べたい食べたい。

美味しいおんなのこ、タバタイ。

《もっといたぶってやるつもりだったのに……………》

あたしは舌打ちした。

悔しかった。

この女達に何の罪も無いのは解っている。

解ってはいるが800年間に及ぶ積もり積もった怨みは、どこかにぶつければどうにもならない爆弾と化していた。

人柱。

街が

あたしを

拝みながら

埋める

「ゴメンね、ゴメンね」

《謝るぐらいなら埋めるな！！！！！！》

「！。…、？○%」

《何言ってるのか解んねえよ神主！！！！！！》

全てが気に入らない。

神主の祈吐が終わった。

それは……、あたしの生命活動の終わりも示していた。

震えながら見上げる上方から、冷たい土が降り注ぐ。

「止めて……」

積もる土。

「何であたしが……」

降り注ぐ土。

「助けて!!」

無視する街人。

首まで埋まったあたし。

「おねばっ……！」

げぼげぼげぼ！

ばはぁ！」

遂にあたしの気管を侵し始めた土。

「おばべば！

びぶぶ！

ぼぼべばぶう!!!!」

《おまえらみんな、呪ってやる!》

という言葉の代わりに訳の解らない喚き声をあげるあたし。

そして、それを今、実行に移している……、あたし。

あたしは後は見つめるだけ……。

後はこの女が……。

ふふふ、さよなら《朝比奈町》

門倉麻里愛^{かどくら まりあ}はテレビを見ている。

今日は、一月ぶりの完全オフだった。

テレビでは、面白ビデオ特集をやっている。それを見ながら時折含み笑い、時折爆笑しつつ

《平和だなあ》

と和んでいた。

そこに……、

『臨時ニュースです。

昨夜未明、〇〇県朝比奈町で、町民全員が惨殺される事件が発生しました。

県警の調べによると、犯人は《朝比奈蛭子》容疑者23歳。

朝比奈神社の巫で、取り調べに対して

「タバタイ、タバタイ、ニンゲン、タバタイ」

と繰り返しており、時折、高笑いをあげるなどの奇行も有ることから、精神鑑定の必要があるものとみて……』

麻里愛は、嫌気がさしてテレビを消した。

(後書き)

ありがとうございました。 m (_ _) m

ご意見、ご感想を頂けたら嬉しい限りでございます。(^ O ^)

今後とも宜しくお願いします(^ o ^) /

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7461a/>

人柱

2010年12月10日02時24分発行